

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 学習意欲の向上 | <p>(1) コース選択に関する情報を、保護者や生徒にさまざまな機会を通して提供すると共に、個々の生徒の希望や適性、能力等を把握し、生徒一人ひとりが適切にコース選択を行えるよう支援する。</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体ガイダンス3回、学科別ガイダンス1回、個別相談会1回、保護者説明会1回、通信10号、コース選択委員会5回など <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望実現95%以上 ・保護者・生徒コース満足度アンケート など | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体ガイダンス3回、学科別ガイダンス1回、個別相談会1回、保護者説明会1回、通信18号、コース選択委員会3回 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1希望のコースに決定した生徒90.4% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が所属するコースを選択して良かったと感じている83.0%(1年) ・多くの生徒が入学後の学習を通してコース選択ができて良かったと感じている86.7%(1年) ・多くの生徒がコース選択に際して、必要な情報を得ることができたと感じている83.4%(1年) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期選抜による入学者は所属する学科以外のコースに進むことができない。入学時のモチベーションを維持させるとともに、相談機能の充実を図る必要がある。 |
| | <p>(2) わかりやすく、かつ深みのある授業を目指し、教員相互による授業見学や授業研究を通して、教員の指導力の向上を図る。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で授業公開を行うとともに、事後協議会で意見交換を行った。 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学や事後協議会を通して、授業の展開や内容の改善方法に気づくことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で見出された課題に対して、どのような改善が図られたか共有する必要がある。 |
| キャリア教育の推進 | <p>(1) 「産業技術基礎」、「キャリアデザイン」の内容や結果の検証を行い、3年間を通した系統的なキャリア教育を構築する。</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術基礎、キャリアデザインの資料及びテキストなど ・教職員向けキャリア教育研修計画 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートなど | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会を定期的に行い、授業内容や評価の充実を図った。 ・次年度に向けて、産業技術基礎の授業内容の改善計画と産業技術基礎ノートの改訂を行った。 ・キャリア教育に関する教職員研修を実施できなかった。 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術基礎が充実していたと答えた生徒90.2% ・キャリアデザインが充実していたと答えた生徒2年:67.8%、3年:64.7% ・キャリアデザインを受けて良かったと答えた生徒約80% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術基礎の学習が、生徒の興味関心や適性にあったコース選択につながっている。 ・フリーターやニートを希望する生徒がほとんどいない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術基礎とキャリアデザインとの接続が十分とは言えない。また、1年次からキャリア教育に取り組む必要がある。 ・キャリアデザインの内容を全教職員で共有できていない。 ・教職員の望むキャリア教育に関する研修についての調査が必要である。 |

| | | | |
|---|--|--|--|
| | <p>(2)伊賀版デュアルシステムを充実、推進させるよう、カリキュラムの精査や生徒の希望に即した企業開拓に努める。</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組のスケジュールなど <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの作成 | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子機械科1名、生物資源科1名、フードシステム科1名、ヒューマンサービス科3名 計6名参加。 ・5月～11月に15回の校外実習を実施した。(計画16回) <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所で生徒が期待していた以上の実習を受けることができ、生徒の満足度も高かった。 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して定期的に事業所で実習を行うことで、専門的な学びが実社会でどのように活かされているのか具体的に学びとる機会につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1日の実習のため、扱うものや内容に連続性を組み込みにくい状況が見受けられる。 |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自立性・社会性の醸成</p> | <p>(1)基本的な生活習慣やマナーを身につけさせ、自ら考え、自ら行動できる社会性を育む。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングとティーチングとを併用した生徒対応のスキル修得をめざしてコーチング研修を行った。(本年度で3回目) ・生徒指導の手引を作成し、教職員と生徒に配布した。 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手引きを活用することで、一貫した生徒指導につながった。また、規則の意義についての生徒理解を深める一助となった。 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に教諭だけでなく、気持ちや考えを引き出し導くというスタイルで対応できた。 ・本校独自のスタイルを構築する目的で4月当初に行った化粧・装飾品指導は一定の成果があった。 ・コーチングスキルを個人面談等に生かすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように指導するか教職員の共通理解が必要である。 ・教職員間の指導の格差をなくすために、より細かな意見交換が必要である。 ・1年を通じて行っているはずの取組や指導が、時間とともに薄れ、継続できていない面がある。 |
| | <p>(2)日常における差別事象に問題意識をもち、社会に存在する差別に取り組むことができるよう人権感覚を高める取組を行う。また、ふれあい面談を通して、個々の生徒の思いを聞き、それぞれの状況に学校全体として適切に対応できる体制の充実を図る。</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の教職員対象研修会の実施 ・生徒対象の人権講演会の実施 など <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート、生徒アンケートなど | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による教職員対象講演会3回実施 ・三同教大会に参加した教職員14名 ・人権・同推たより12号発行 ・生徒向け講演会各学1回実施 ・学年別人権学習の実施(各学年3テーマ) ・ふれあい面談2回実施 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修及び人権学習の事後アンケートでは、肯定的な意見が多く見受けられた。 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修を通して、外国籍生徒や保護者、進路保障、特別支援などについての理解を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教職員が参加できる研修の時期や方法を考える必要がある。 ・開校後初めての卒業生を輩出した本校の人権教育を振り返り、生徒の実態を踏まえたカリキュラムを確立する必要がある。 |

| | | | |
|--|---|--|---|
| | <p>(3) 自らの生活習慣を見つめ、自己の健康管理ができる生徒を育成する。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの重点目標を設定し、実施計画の通り取り組むことができた。 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理ができたと答えた生徒 82.1% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は月ごとの保健だよりや掲示物により、生活習慣を省みて、概ね自己の健康管理に努めることができた。 ・保健室来室生徒数に対する内科来室生徒の割合は比較的 low 抑えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科来室生徒が伊賀管内の高校の平均より多い。さらに部活動顧問や教科と連携して、自己の健康管理に努めることができるよう、指導を徹底する必要がある。 |
| | <p>(4) スクールカウンセラーとともに、悩みをもつ生徒や保護者・教職員を支えられる相談体制の充実を図る。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談、来室の生徒に対して、スクールカウンセラーを含む保健部が一丸となって対応することができた。 ・教育相談に関する職員研修会3回 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談できる先生やスクールカウンセラーがいると答えた生徒 59.2% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にカウンセリングに訪れることで心の安定を取り戻し、学校生活に前向きになれている生徒が複数いる。 ・教職員にとって、スクールカウンセラーの存在は心強く、積極的な連携が図られている。 ・職員研修を通して、さまざまな事例を学ぶことができ、それを生徒との関わりの中で生かすこともできつつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングを必要とする生徒や保護者が増えつつある状況の中で、決められた時間に相談を受けられる人数に限られている。心の問題を抱える生徒の誰もが専門的なカウンセリングを受けられるような体制が必要である。 |
| | <p>(5) 毎日の清掃の徹底を通じ、環境の美化に努めさせ、ゴミの分別を徹底することにより、資源の再利用とゴミの減量を意識させるよう指導し、社会性の涵養の一環とする。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃区域の見直し、分別の周知徹底や必要性の啓発等に取り組んだ。 ・種類別にゴミ計量を行い、データを集積した。 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化、再利用、ゴミ減量に取り組んだと答えた生徒 70.7% ・全ゴミ量: 昨年比 3.6% 減 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度より、新たに容器包装プラスチックの分別を始めた。 ・ゴミ減量の取り組みが進みつつある。また、種類別排出量のデータが蓄積され活用できる状況にある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化やゴミ分別に対する生徒の意識は不十分であり、清掃の不徹底や、可燃物の中にペットボトル等が混在している等、分別が徹底できていない状況がある。 |

| | | | |
|---|--|--|---|
| | <p>(6) 1年次は全員部活動に加入することとし、地域の代表、県の代表として活躍できるよう部活動の奨励に取り組む。</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動への積極的加入のための部紹介など <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県代表としての東海、全国大会への参加状況 文化祭などにおける文化部の発表状況 | <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次は全員部活動に加入し、身体的、精神的、技術的な向上と上位大会への参加を目指して取り組んでいる。 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国高校駅伝大会出場をはじめ、陸上部と弓道部が全国大会に出場した。文化部では、エコカー部や吹奏楽部等が校内外で活躍している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所や専門の指導者等が不足している。 |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域に愛される学校づくり</p> | <p>(1) 本校に関する情報を、様々な機会を通じて発信するとともに、学校の施設設備等を公開する機会を設けるなど、小学生、中学生、保護者、地域住民等の本校に対する理解を深める。また地域からの要望や意見などを聞く機会を設け、改善を図ってゆけるしくみを構築する。</p> <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活入門講座や小学生見学会参加者の満足度アンケートの結果 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習作品や実習製品の外部評価の導入 | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東小学校との連携事業で5年の児童に産業技術基礎の授業を見学してもらうとともに、本校生徒と意見交換を行った。 緑ヶ丘中学校の2年生全員を本校に招き、本校の特色等について説明するとともに、実習の様子を見学してもらった。 高校生活入門講座の参加生徒数 393名 各学科やコースが主体的に学習成果発表や地域の人との交流を行った。 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活入門講座が有意義であったと答えた生徒 96.9% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生、中学生、保護者、地域住民等の本校に対する理解を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部から連携を依頼される場面が増えてきた。本校について広く理解していただくためには良い機会になるのだが、内容と生徒たちへの教育的な効果の点で精査が求められる。 |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">情報共有</p> | <p>(1) 学校の方針や重点目標、課題及び行動計画などを全職員が理解するとともに、共有できるしくみを構築する。</p> | <p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員との意見交換を踏まえて学校経営の改革方針を策定した。 学校の経営や運営に関するグループ討議2回 ハンドブックの作成 <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のビジョンに対する教職員の共通理解について、満足していると答えた教職員 35.6% | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンドブックの作成や教職員研修の実施などを通して、教職員間の情報共有を進めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員間の対話や調整が不十分で改善活動に繋がらなかった面がある。 共通理解を図るための対話の機会やしくみづくりが必要である。 各分掌等が主体的に改善活動に取り組めるよう目標設定の在り方や改善方法などについて検討する必要がある。 |

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況

| | |
|--------|--|
| 強 み | <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教師集団であり、生徒一人ひとりにきめ細かい指導ができるだけの教員数を有している。 ・家庭訪問、PTA 活動、部活動などを通して保護者との連携を密にし、信頼関係を構築している。 ・地域唯一の専門高校として、地域の期待に応えられる体制がある。 |
| 弱 み | <ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンに対しての共通理解が十分ではない。 ・組織が大規模のため7つの専門科を持つことの良さや組織力を十分生かし切れていない。 ・教職員間の意思疎通が十分ではなく、共有した情報を十分に使いこなせていない。また、個々の生徒に関する情報共有が図られていない。 ・地域に学校の魅力を十分伝えきれていない。 ・教職員の気持ちを大切にすあまり、リーダーシップが十分に図られていない。 |

(3)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題

| | |
|-----------------------|--|
| 関 係 者 評 価 | <p>学校で生徒に力をつけるべく行われている様々なご指導の様子がよくわかる。せつかくここまで幅広くご指導されているのだからこそ、「人としてどうあるべきか」ということをおさえながら、生徒の習慣作りは日々の挨拶指導から、環境整備は将来的には各事業所で3 Sにつながることも含みを持たせると更に専門高校の生徒として学ぶべきことがおさえられるのではないか。(H24.3.6.)</p> |
|-----------------------|--|

(4)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の対話の機会を増やす。 ・各行事や取組後に振り返りを行うとともに情報共有を行う。 ・内側から見えやすい学校づくりをめざし、情報発信を行う。 ・教職員の意見をまとめ、リーダーシップを発揮して指針を明らかにする。 |
|---|